

## 「わたしを通して」

### テモテへの手紙二 第4章17節

聖学院教会牧師・聖学院みどり幼稚園園長・聖学院みどり幼稚園チャプレン 赤田 直樹

「しかし、わたしを通して福音があまねく宣べ伝えられ、すべての民族がそれを聞くようになるために、主はわたしのそばにいて、力づけてくださいました。そして、わたしは獅子の口から救われました」。

私は、「日本一の聖学院バカ」です！

※ 2021 年度・自分調べ。「〇〇バカ」というのは、そのことが好き過ぎてどうしようもない人のことです。

私は、大学で聖学院に出会ってから、大学も、教会も、聖学院のことが、好きで好きで、好きで、たまりませんでした。

秋田で仕事していた 15 年、出張の時に、こっそり見に来たこともありました。見つかるのが恥ずかしくて、夜中こっそり、鴨川の向こうの茂みから、チャペルを眺めていました。秋田に戻ると、思っていました。「また聖学院に行きたい」。

そんな夢が、実現しました！

聖学院教会の牧師、聖学院みどり幼稚園の園長になりました。今では、毎日堂々と来れます。夜中こっそり、来ることもあるんです。礼拝の準備のために、夜中こっそり、やって来ます。門の鍵も、部屋の鍵も持っている。守衛さんに見つかっても、「ご苦労様」って言ってくれます。

もう私、何て幸せなんでしょう！

「また聖学院に行きたい」。そんな夢を、神さまがかなえてくださったんです。学生時代は、落ちこぼれで、悩んでばかりいた私でした。でも今、私は「聖学院に必要とされる自分になる」ということを、自分で決めたのです。

聖学院を創ったディサイプルス派の宣教師たちがいたから、自分が生まれました。聖学院が、「私」という「存在」を育ててくれました。私は、その聖学院に恩返しをしたいんです。だから私は「聖学院に

必要とされる自分になる」といこうとを、私が自分で決めました。他の人がどう思っているか、ではなくて、自分がどう思うか、です。自称「日本一の聖学院バカ」が自分で「聖学院に必要とされる自分になる」と決めました。なぜならば、そのように信じるのが、自分と、そして聖学院の未来を切り開くと、信じているからです。

今から 2000 年前にも、ものすごい「〇〇バカ」がいました。パウロという人です。この人は、ものすごい「キリストバカ」でした。キリストに愛されて、そしてキリストを愛して、愛して、愛し抜いて、命を懸けたんです。

彼は最初クリスチャンを迫害していたはずなのに、復活のキリストに出会ってしまいました。そしたら、それまで迫害していたはずのキリストを宣べ伝える人になったのです。

そして、ついには、自分の名前まで変えてしまいました。「サウロ」から「パウロ」へ…。「サウロ」というのは、自分のご先祖様にいるイスラエルの王様の名前です。「パウロ」は、「小さい」という意味の名前です。そこには、クリスチャンを迫害していた自分は一番「小さい」存在なんだ、という思いが込められています。でも、その小さい存在のパウロが、世界を大きく変えて行くのです。

「しかし、わたしを通して福音があまねく宣べ伝えられ、すべての民族がそれを聞くようになるために、主はわたしのそばにいて、カづけてくださいました」。

今日の手紙はきっと、パウロが殉教する前に書いた手紙です。私は、彼がその時に閉じ込められていた牢屋に行ったことがあります。ローマのフォロ・ロマーノと呼ばれる中心部のすぐそばです。石の階段を降りていった薄暗い地下牢で、60 代のパウロはこの言葉を綴っていたんです。

すごい言葉ですよ。

パウロは、「わたしを通して」「すべての民族が」「福音」「を聞くようになる」って言ってるんです。それも、今、牢屋の中で、殺されるのを待っている人がそんなことを言っているんです。一緒にいるキリストがそう語ってるんだから、絶対にそうなる、って言うのです。しかも、その「福音」グッド・ニュースは、キリストが私たちの罪の身代わりとなって十字架で死んで甦ったからには、キリストを信じる私たちも甦り天国で永遠の命をいただける、という内容です。

もう、ヤバイですよ。牢屋の中で、処刑されるのを待ってる人が、そのニュースを語って、「わたしを通して」「すべての民族が」「福音」「を聞くようになる」。一緒にいるキリストがそう語ってるんだから、絶対にそうなるって…。

でも、どうでしょうか？

この世界は、本当にパウロが信じたようになったんです。パウロ「を通して」「すべての民族が」「福音」「を聞くようになる」ったんです。今、地球上に約 80 億人いる中で 33%、3 人に 1 人はクリスチャンなんです。

これ、スゴくないですか？

聖学院があるのだから、パウロがそう信じたからです。今、皆さんが学んだり、働いているのだから、パウロがそう信じたからなんです。パウロがそう信じて、パウロと同じように信じる人たちが次々と現れて、ディサイプルス派の宣教師達もパウロと同じように信じて、そうになったんです。「わたしを通して」「すべての民族が」「福音」「を聞くようになる」って信じたから、ディサイプルス派の宣教師スミス宣教師、ガルス宣教師だって日本に来たんだし、ガイ博士だって聖学院を作ったんです。もしも、あの牢獄の中で、パウロが そう信じなかったら、私たちは今ここにはいないんです。

逆に言うと、信じた通りに世界は作られてゆく、ということです。ヨハネの手紙一 5 章 14 節には、次のように言われています。「何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対するわたしたちの確信です」。神さまの御計画を受け取って、それを本気で信じるならば、世界は「わたしを通して」そのように作られてゆき、人生も「わたしを通して」そのように作られゆくんです。

私には、夢があります！

それは、聖学院教会の礼拝堂で、日曜日に、私の後輩の皆さん、同僚の皆さんと一緒に、神さまを礼拝すること。そして、日本一・世界一の素晴らしい礼拝を献げること。さいたま・上尾キャンパスのある地域が、神さまのご栄光で輝くこと。

もう一つは、聖学院みどり幼稚園に、日本一・世界一の園舎・園庭を作ること。児童学科の卒業生の方と一緒に、日本一・世界一の保育をして、子どもたちの心を育み、生きる力を育み、そして、日本を、世界を作ってゆくことです。

確かに課題は色々あります。でも、どんなありえないような状況でも、「わたしを通して」「すべての民族が」「福音」「を聞くようになる」って、パウロが信じたからこそ、世界は、今の姿になったのです。「わたしを通して」と、宣教師たちが信じたから、聖学院ができたのです。「わたしを通して」と、先達が信じたからこそ、聖学院教会も、みどり幼稚園もできたのです。

次は、私たちの出番です。だからこそ、「日本一の聖学院バカ」である私は、「わたしを通して」日本一・世界一の教会と幼稚園を作ると「信じる」ことを決めました。それが、神さまの御計画だと、信じているからです。

同じように、神さまは、かけがえのない「あなたを通して」でしかできないことを成し遂げようと、ご計画されているのです。後輩の皆さん、同僚の皆さん、「わたしを通して」でしか実現できない世界を、一緒に祈りながら、創って行きましょう！

祈り：天の父なる神さま、あなたが、私たち一人ひとりの存在を通して、救いの御計画を実現されようとしておられることを、感謝いたします。私たち一人ひとりが、祈りの中でそれを受け取り、「わたしを通して」、あなたの御心を実現して行くことができますように、導いてください。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

2021年10月8日 聖学院大学 全学礼拝